北九州市立小倉南図書館指定管理者検討会　会議録

１　開催日時　　令和８年１０月１５日（木）１３：３０～１７：００
２　場　　所　　北九州市立子ども図書館　大研修室
３　出 席 者　　（検討会構成員）浅羽構成員、尾場瀬構成員、神尾構成員、森構成員、
［五十音順］　山元構成員
（事務局）　運営企画課長、奉仕課長、運営企画課庶務係長、子ども図書館企画係長

〇構成員の互選により、座長を選出。
〇検討会の位置づけ、選定基準、採点の注意事項等について事務局から説明。

〇応募団体（シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社（以下、「シダックス」という））から、提案内容についてのプレゼンテーション及び質疑応答を実施。

（構成員）ご提案の「耳で楽しむ図書館」の具体的内容を知りたい。
（応募団体）「耳で楽しむ図書館」は、 九国大（九州国際大学）がディスクリプトメディア（SNS やラジオ配信等）を活用し、大学生が図書館のおすすめ本などを発信する取り組みである。
（構成員）「図書館 DX への対応力」について説明してほしい。
（応募団体）DX の取り組みについては、蔵書点検ロボットの開発（カメラで背表紙を読み取り、データと照合するシステムを開発中）により、IC タグがなくても蔵書点検が可能になることから司書の負担軽減や開館日数の増加につなげることができる。簡易レファレンスを自動化（ＡＩ化）することにより、司書はより深い調査研究業務に注力できるようにする。さらに、e ラーニングやクイズ形式で、司書のスキルアップを図る環境を整備する。
（構成員）これまでの業務では窓口業務を担っていることが多いが、窓口業務の場合、指定管理と異なり一歩踏み込んだ工夫がしにくい「敷居の高さ」があると思うが、このことについての対策はどのように考えているか。
（応募団体）窓口業務と指定管理業務の垣根への対策としては、本部サポートや他館研修を実施し、職員等のスキルアップや意識を変えていくことが大事と思っている。また、全国の司書がイベント情報などを共有できるプラットフォームを設け、ノウハウ共有や意識・スキルの改善を図ることで解決されると思っている。
（構成員）改善すべき問題意識やＤＸなど具体的に導入したい案件等があれば教えてほしい。

（応募団体）アンケート等では、Wi-Fi や学習スペース、パソコン席の充実が求められている。混雑時はカフェスペースやセミナールームの開放、地域施設の案内等で対応・調整したい。

（事務局）自動貸出機等の ICT 活用（IC カードや自動貸出機）は、指定管理の中で新規導入する予定なのか。また、「アクセシブルライブラリー」（電子書籍による視覚障害者向けサービス）は指定管理の中での新たな計画なのか

（応募団体）自動貸出機等については、 今回、指定管理の予算内には入れていないが、コスト抑制方法などを含めたところで提案したい。

アクセシブルライブラリーについては、 障害者・高齢者向けサービスとして、指定管理料の中に含めている。

（事務局）中央図書館との連携について、高度な調査や専門資料の要求等についても、原則として小倉南図書館側で責任を持って解決できるよう取り組んでほしい。

（応募団体）郷土資料などの所在等確認は館同士でやり取りし、高度なレファレンスについても社内研修等を通じて司書が解決できるよう教育していく。

〇応募団体（日本施設協会・図書館流通センター共同事業体（以下「共同事業体」という））から、提案内容についてのプレゼンテーション及び質疑応答を実施。

（構成員）2 団体の共同事業体の体制は現在の体制と同じなのか、業務分担、責任分担はどのようになるのか。また、損害賠償発生時の対応について伺いたい。

（応募団体）運営体制はこれまでと同様。地元企業である日本施設協会の地域ネットワークを活かすとともに、図書館流通センターの全国的な実績や課題等を毎月の会議で共有し、２社の長所を生かす体制づくりを行う。

賠償責任は、指定管理者向けの保険に共同事業体として加入しており、想定外の大規模な負担が生じた場合は、2 社が同じ割合で負担する。

（構成員）e スポーツ機材は高価と思うが指定管理料で購入しているのか。

また、職員の休暇（週休 2 日、有給）は、全職員が希望通りに取得できているか。

（応募団体）e スポーツ機材は図書館予算では購入せず、B 型作業所等「ONEGAME 北九州」とのネットワークを活用し、無償で借り受けて開催している。

週休 2 日の休暇を取っている。また、有給休暇はパート含む全職員に適用され、消化率も高い。

（構成員）「出前講座」について、共同体事業体として取り組むのか、具体的にはどのような例があるのか。

また、e スポーツのほか、本中心のイベント（アニマシオンなど）について、どのように考えているか。

（応募団体）出前講座は小倉南図書館として実施する。小学校や市民センター、各種イベン

ト、研修会など、多方面で実施し、図書館の魅力を周知する活動を行っている。
アニマシオンについても、ビブリオバトル等スポット的なものを含めて継続的に実践できるよう取り組んでいく。

（構成員）管理運営計画にはたくさんの活動内容が示されているが、新しく力を入れている事業が認知症対応やｅスポーツということか。また、今後のDXに向けた取り組みについて伺いたい。

（応募団体）基本は既存の運営内容を記載しているが、ｅスポーツや認知症対応などはここ1～2 年の試験運用を経て効果が認められたものを新規提案として記載している。
DX については、児童のタブレット授業の普及や紙の利用減を踏まえ、データベース等の活用や他団体との協力を通じて図書館独自の取り組みを進めていく。

○応募団体のプレゼンテーション終了後、構成員が、ヒアリングや提案書、応募団体に関する書類などを総合的に検討して採点した結果を集計。審査項目ごとに各自の採点結果とその理由を発表し、意見交換を行った。

○【適性についての意見交換】

（構成員）シダックスは、理念をより具体性化することが望まれる。共同事業体は誰にも利用しやすく安らげる図書館にするための施策について高齢者・障害者への対応は評価できるが、より幅広い世代へ施策の拡充が望まれる。

（構成員）共同事業体はこれまでの実績を踏まえた実践的な提案が評価できる。また、シダックスはこれまでにない新しい提案に可能性を感じる。

（構成員）実績・経験の面で、共同事業体は北九州市の現状についてよく理解したうえでの提案がなされている。

（構成員）シダックスは、実績・経験は乏しいものの管理、運営の理念等について、北九州の方針を踏まえて分析されている。

○【有効性についての意見交換】

（構成員）数値目標について、共同事業体は、現状より低く設定されているが、シダックスは目標が高く実現可能か不明だが挑戦姿勢がみられる。

（構成員）シダックスは提案内容はよいが、地域図書館の状況把握をしたうえで、より実現可能性の高い提案が望まれる。共同事業体はより実現可能な提案がなされている。

（構成員）設置目的の達成では、他団体との連携実績や提案において、共同事業体の提案が優れている。シダックスはAIロボット等の新しい試みがあるが実現可能性やコスト面への懸念がある。

（構成員）共同事業体は実績を踏まえた提案で、シダックスは斬新で魅力的な提案がある。

（構成員）シダックスのアクセシブルライブラリーについて、障害者が音で聞く機械は非常

に高価。日常生活用具としては障害１・２級しか貸与されない。このアクセシブルライブラリーは誰でも読めるのであればよい取り組みであり、指定管理で実現できれば良い。

（構成員）共同事業体はＤＸ推進に関しては、やや慎重な姿勢がみられた。シダックスはＤＸの取組みには興味はあるが、共同事業体は、しっかりと確実な管理運営をすることが期待できる。

（構成員）シダックスのＤＸ等の先進的な面は魅力的だが、どの程度うまく使いこなせるのかが分からなかった。

（構成員）高齢化する一般市民が対象であれば、人と人との地道な対応を大事にするような取り組みが大事。

（構成員）共同事業体は共同運営のメリットがあまり感じられない。

○【効率性についての意見交換】

（構成員）経費の資料に大きな差はなく、甲乙つけがたい。

（構成員）両社とも大きな違いは認められない。

（構成員）シダックスはその他経費が少なく、共同事業体はバッファを持った予算構成だが、大きな差はない。

（構成員）シダックスは配置人員を増やしており経費への影響を懸念したが、問題はない。

○【適正性についての意見交換】

（構成員）シダックスは、地域貢献の提案があり実現すると良いと思う。共同事業体は管理体制がしっかりしていることと、地域貢献については提案が具体的なところを評価した。

（構成員）個人情報保護(プライバシーマーク)や平等利用、地域貢献については両社ともしっかりやってくれると思う。

（構成員）シダックスの人員配置・分業体制は各領域が明確となっている。危機管理体制も具体的で安心感がある。

（構成員）シダックスは人員配置や研修の内容が分かりやすく、平等利用に関して具体的な記載があり、障害者雇用の人数も具体的に記載されている点が評価できる。

○【集計結果発表】

（構成員）最終集計結果は、シダックス 88 点、日本施設協会等 88 点＋優遇措置 5 点で 93 点となった。

　審査結果としては、適性、有効性、効率性、適正性すべての項目において、両社とも４点という結果になったが、構成員ごとの点数を見ると、適性・有効性・効率性に関しては、共同事業体の評価点数が概ね高く、適正性に関しては、シダックス

が高くなっている。総合的に判断し共同事業体を選定することに、異議がないか伺いたい。

（構成員）異議なし。

〇【付帯意見について意見交換】

（構成員）検討会として、指定管理者候補としてふさわしいと判断される団体に対する付帯意見を付すことができるが、意見はあるか。

（構成員）意見なし

〇最終結果について

応募 2 団体からは、それぞれ特色のある、意欲的な提案がなされた。シダックスは、DX など、これまでにない斬新で魅力的な提案がある一方、共同事業体はこれまでの実績を踏まえた実践的な提案がなされた。審査結果としては、シダックスの提案には魅力を覚えるが、実現可能性および継続性について慎重に見極める必要があり、実践的な提案を行った共同事業体が、適性、有効性、効率性の分野で上回っている。また、合計点でも構成員５名の内３名が共同事業体の評価が高くなっている。以上の評価結果を踏まえ、総合的に検討した結果、得点の合計はどちらも８８点であるが、日本施設協会・図書館流通センター共同事業体が優位と判断し、また、地元団体に対する優遇措置の配点５を加え、合計得点９３点と最高点になることから、検討会としては、日本施設協会・図書館流通センター共同事業体が、指定管理者候補として相応しいと判断する。

市は、検討会での議論を十分に考慮し、最終決定を行われたい。